

(様式第1号)

令和2年3月18日

陸前高田市議会議長 福田利喜様

会派名 新志会

代表者職氏名 会長 蒲生 哲



政務活動概要報告書

政務活動費に関する取扱要綱第6条第2項の規定により、令和元年度政務活動の状況について報告いたします。

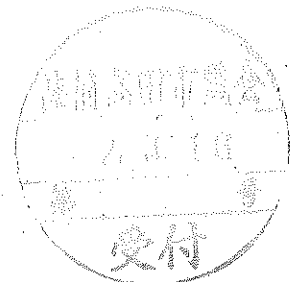
記

1 調査研究事業

- (1) 事業名 地元選出国會議員との意見交換、及び新国立競技場視察
- (2) 実施日 令和2年1月23日(木)～25日(土)
- (3) 場所 新国立競技場、国会議事堂、自民党政務調査室
- (4) 参加者 蒲生 哲、伊藤 明彦
- (5) 行程 別添出張報告書のとおり

2 研修事業

- (1) 「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」地方議会改革プロジェクト第2回会合
- (2) 実施日 令和2年2月7日(金)～8日(土)
- (3) 場所 日本生産性本部・経営アカデミー(新丸の内ビル6F)
- (4) 参加者 蒲生 哲
- (5) 行程 別添出張報告書のとおり



令和2年1月25日

新志会

会長 蒲生 哲 様

新志会 蒲生 哲



出張報告書

| | |
|---------|--|
| 出張者氏名 | 蒲生 哲、伊藤 明彦 |
| 出張月日 | 令和2年1月23日(木)～25日(土) |
| 出張(用務)先 | 東京都内 |
| 目的(用務) | 新国立競技場整備事業と鈴木俊一自由民主党総務会長意見交換 |
| 面談者等 | 衆議院議員 鈴木俊一氏、参議院議員 木戸口英司氏 他 |
| 交通手段 | 新幹線、鉄道、タクシー、自家用車 |
| 経路等 | 1月23日(木) 陸前高田市発(自家用車)→一ノ関駅(新幹線)→東京(JR)→千駄ヶ谷駅→新国立競技場整備事業視察(タクシー)→国会議事堂視察→衆議院会館) 衆議院議員 鈴木俊一氏との会談)→ホテル着 1月24日(金) ホテル発→参議院会館→ 参議院議員 木戸口英司氏、田名部匡代氏との会談→ホテル着 1月25日(土) ホテル発→東京駅発(新幹線)→一ノ関駅 16:10着(自家用車)→陸前高田市着 |
| 出張費用 | 旅費・宿泊費等 113,257円 |
| 顛末 | 1 新国立競技場整備事業について 東京2020オリンピック・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場は、本市に建設している様々な施設とはその規模は桁違いだが、オリンピック・パラリンピック終了後の活用方法が様々な検討されており、本市における公共施設の活用や管理について参考にするべき点が多々あるように感じられた。 施設維持にかかる経費をどのように賄うのか、陸上競技の永続的な公認グラウンドとして使えないことなどから、大会後は施設の一部改修をして普段から使える。そしてフィールドと観客席を近くし、サッカーやラグビーの醍醐味をより感じられる競技場に、また、様々なイベントに活用できるように配慮するなど工夫をしているとのことであった。 また、施設は47都道府県の本材を使用しており、特色と多くの木材を用いることによる環境への配慮がなされている施設となっていた。多くの人が集まることから木材のよさを知ってもらえると感じた。本市でも気仙杉をはじめ木材産業の振興が急務であることを鑑みると、公共施設への木材の使用を積極的に行うことが木材産業、森林生産に寄与すると感じたところである。特に、多くの人が集まる施設への積極的な利用は、知らず知らずのうちにそのよさを知 |

らしめるショールームの役割を果たすものと感じたところである。本市でも、市立図書館を始め、気仙小学校、高田小学校などに気仙杉を活用しており、特に、大勢の方が自由に出入りできる市立図書館をこのように活用できるのではないかと感じてきたところである。

2 鈴木俊一自由民主党総務会長訪問について

本県選出の鈴木俊一自由民主党総務会長の議員会館事務所を訪問し、復興庁の延長についての情報交換を行い、本市の現状を報告し復興事業の完遂についてお願いをしてきたところである。

また、一般社団法人岩手県漁港漁村協会会長であることから、昨今の海の状況や、不漁が続く漁獲状況について意見交換を行ってきたところある。

市議会議員であっても、国の動向等に注視することが本市の課題解決と市政の発展に向けた議員活動に資するものだと改めて感じたところである。

3 木戸口参議院議員、田名部参議院議員等との意見交換について

木戸口英司参議院議員、田名部匡代参議院議員事務所を訪問し、政府が進めている地方創生に関する施策について意見交換を行った。

木戸口参議院議員は岩手選挙区選出議員であることから、現在の県内及び本市が抱える諸課題にも精通しており、意見交換と課題解決に向けての具体的なお願いをしてきたところである。

また、田名部参議院議員は青森県八戸市を地盤とする議員であり、三陸沿岸の地域課題、特に水産業についての意見交換を行ってきたところである。

本市の抱える課題として、木戸口参議院議員とは本市の震災復興について、田名部参議院議員とは水産業の近年の不漁対策と水産加工業の振興策についてお願いをしてきたところである。

令和2年2月9日

新志会

会長 蒲生 哲 様

新志会 蒲生 哲



出張報告書

| | |
|---------|--|
| 出張者氏名 | 蒲生 哲 |
| 出張月日 | 令和2年2月7日(金)～8日(土) |
| 出張(用務)先 | 日本生産性本部・経営アカデミー (新丸の内ビル6F) |
| 目的(用務) | 地方議会改革プロジェクト第2回合同会合出席 |
| 面談者等 | 山梨学院大教授 江藤俊昭氏 ほか |
| 交通手段 | 新幹線、地下鉄、タクシー、自家用車 |
| 経路等 | 2月7日(金) 陸前高田市発(自家用車)→一ノ関駅発(新幹線) →東京駅→日本生産性本部・経営アカデミー(新丸の内ビル6F) 研修会(タクシー)→ホテル着 2月8日(土) ホテル発→東京駅発(新幹線)→一ノ関駅着(自家用車) →陸前高田 |
| 出張費用 | 旅費宿泊費等 39,140円 |
| 顛末 | <p>第三期「地方議会における政策サイクルと評価モデル研究会」第2回会合・「議会評価モデル構築P.T」第6回会合(合同開催) <u>地方議会改革プロジェクト第2回合同会合</u></p> <ul style="list-style-type: none">●日時 2020年2月7日(金) 13時30分～19時30分●場所 日本生産性本部・経営アカデミー●到達目標 議会評価モデル最終案のご報告と今後の普及方策等の検討 <p>概要及び所感:地方議会改革プロジェクト共同代表の江藤俊昭山梨学院大学教授から、これまでのプロジェクトの活動について経緯説明と、地方議が置かれている現状について話された。</p> <p>地方議会における政策サイクルと議会改革の先頭集団を走る議会にスポットを当ててきたが、今後は中段を走る議会にスポットを当てて全体の底上げが必要なことから、企業の生産性を得意とする日本生産性本部のノウハウを生かして、議会について評価をし、自らの立ち位置を確認することも一つの手段であるとして、今回の議会評価モデルにつながっているとの説明がなされた。</p> <p>「地方議会評価モデルの意義と課題」のテーマで江藤教授の講話より、</p> <ol style="list-style-type: none">①「よい政策」には組織プロセスこそが重要(経営品質)②価値創造を目的とする(住民自治の推進) <p>*政策評価は、選挙や歴史が行う。(行政、政党、あるいは市民が行う評価を否定するものではない)こと等の説明がなされ、各々の議</p> |

会に当てはめたワークを行い、テーブルごとに発表を行った。

議会評価試行の結果について会津若松市、飯田市、甲府市、那覇市、船橋市から報告が行われた。この議会は、議会改革のトップランナーといわれる議会から、あまり進んでいないといわれる議会を抽出して行われたとのことである。

次に、具体的な評価の仕方について説明がなされた後、簡易版の評価シートを使い、自分たちの議会について評価を行ってみた後、意見交換がなされた。

また、今回のセミナーの問題意識として、

(1) 政治の台頭と議会の役割の向上

(2) 従来の議会とは異なる新たな議会運営(議会基本条例に刻印)とその評価

(3) 住民福祉の効能に連動させる議会改革(議会からの政策サイクル)とその評価を意識して取り組む旨の説明があり、

議会改革評価の位置：相互関連と価値創造については、

(1) 議会基本条例に刻まれた議会運営を議会からの政策サイクルに連動すること

(2) 議会からの政策サイクルをより豊富化するために議会基本条例改正や会議規則、規程・申し合せ・討議基準等の整備を行っていくこと

(3) これらの改革は、住民自治の進展に基づく改革。同時にこれらの改革が住民自治を進展させるが、価値創造につながること等、そこでの行動・対話・思考方法・組織が持つ能力などの違いを成熟度という形で表現することによって、包括的に評価することが必要となるとの説明がなされた。

今回の議会評価モデルは、実際に行ってみて、客観的に自分たちの議会がどういう状況にあるかを5つの視点に分類してみることができることから、議会全体での評価の前に議員個々が評価をしてみることで、議員個々の議会についての認識度の違いが判り、どのような議会に向かうかについて意識の共有が図りやすい手段だと感じたところであり、本市議会でも取り入れてみたい試みである。

【所感】

今回のテーマでもあった「議会改革」の一つである「議会評価モデル」は、点数をつけ合うことが目的ではなく、「気づき」が最も大切だということが重要であると認識した。

今般のセミナーは議会改革の一つの手法の「地方議会評価」を導入し、効率的な議会改革を進めようとするセミナーであり、当議会においては機会があるのであればそのような手法も取り入れて良いのではないかと感じたセミナー研修であった。